

浜北 県立森林公園

空の散歩道から 空中観察



メタセコイア (曙杉)

メタセコイアは生きて化石として有名になったスギ科の落葉高木です。曙杉(あけぼのすぎ)という和名がつけられていますが、一般には属名のメタセコイアと呼ばれます。メタセコイアとは、もともとは化石に名付けられた名前です。すでに絶滅したものと考えられていたのが、第2次大戦の最中に中国の奥地で生育が確認され、戦後、「生きた化石」として世界各地で栽培されるようになったものです。現在では学校や公園などに数本ずつ植栽されていることも多く、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。この木は、針葉樹には珍しい落葉樹で、秋に紅葉(茶色)して葉を落とすのが特徴です。

スギ科
Taxodiaceae

曙杉

メタセコイア METASEQUIA GLYPTOSTROBOIDES

中国原産の落葉高木。
化石の方が現生種より先に知られていた。花は2~3月に咲き、球果は10月頃熟す。



バラ科
Rosaceae

山桜

ヤマザクラ Prunus jamasakura

宮城県より南に生える落葉高木。淡紅色の花と赤褐色の葉は同時に開く。古野桜は有名。園芸品種が多い。



ヤマザクラ (山桜)

ヤマザクラは、古くから日本に自生してきた桜です。ソメイヨシノをはじめとする桜の多くは、人が作り出した園芸品種ですが、ヤマザクラは、これらの園芸品種の母種として、様々な品種を生み出してきました。葉の出る前に満開の花を咲かせるソメイヨシノに比べ、花の数も少ないため、豪華さでは見劣りしますが、赤褐色の葉が開くのと同時に咲く清楚な花は風雅な趣があり、好む人も多いようです。ソメイヨシノは江戸時代末期に作り出された桜ですが、ヤマザクラは日本古来からの桜であり、源氏物語や万葉集などに登場する桜は、すべてヤマザクラです。サクラの仲間では長命で、巨樹になります。有名な奈良県吉野山の吉野桜もこのヤマザクラです。

モクレン科
Magnoliaceae

白木蓮

ハクモクレン MAGNOLIA DENUDATA

白くて香りのある花は早春、葉より早く開く。がくと花弁は同形同大、区別がつかない。中国原産の落葉高木。



トチノキ (栃の木)

トチノキは北海道西南部から九州に分布するトチノキ科の落葉高木です。5月から6月頃、若葉の展開とともに枝先に小さな白い花がたくさん集まった花序を塔のように突き出します(円錐花序)。トチノキの葉は典型的な掌状複葉(しょうじょうふくよう)で、5~7枚の小葉が手のひら状に集まって一つの葉を形成しています。小葉の大きさは中央が大きく脇に行くにつれて小さくなります。パリの並木で有名なマロニエと同じ仲間、最近では都会の街路樹として植えられることも多いようです。ところが、トチの実が大きくて堅いので、落下した実が下に駐車している車のボディを傷つけてしまうという笑い話のような問題が、結構深刻なようです。東京都では、落下する前にすべての実をたたき落とすという作業が行われているそうです。

ハクモクレン (白木蓮)

ハクモクレンは中国原産のモクレン科の落葉高木です。3月から4月にかけて直径15cmほどの芳香のある白い花を咲かせます。このため、紫色の花の咲くモクレン(紫木蓮)に対して白木蓮と名付けられました。花弁は6枚でガクが3枚ありますが、あまり違いが分からないので9枚の花びらがあるように見えます。ハクモクレンは、葉の出る前に花が咲くため、満開の時期には木全体が真っ白に染まります。その姿は、大型の白い蝶が群れているような風情です。

トチノキ科
Hippocastanaceae

栃の木

トチノキ AESCULUS TURBINATA

山の谷に生える落葉高木。大木には、クリに似た実がなる。同じ仲間、パリの並木で有名なマロニエがある。



マンサク科
Hamamelidaceae

紅葉葉楓

モミジバフウ LIQUIDAMBAR STYRACIFLUA

別名アメリカフウ。樹皮はコルク質、縦に割れる。葉はカエデに似て5裂、落葉期は暗紅紫色。北米原産の高木。



モミジバフウ (紅葉葉楓)

モミジバフウは大正時代に渡来した北米原産のマンサク科の落葉高木で、同じ仲間の楓(フウ、中国・台湾原産)と区別するため、アメリカフウとも呼ばれます。フウの葉は3つに分かれているのに対し、モミジバフウはモミジのように掌状に5~7つに分かれます。そこから「モミジ」の名がつけられました。また、若枝にコルク質の翼ができることも特徴です。秋の紅葉が美しいことから、公園や街路樹として好んで使われます。

アカマツ (赤松)

アカマツは、日本のほか朝鮮半島、中国東北部などに広く分布します。クロマツに比べて木肌が赤みを帯びていることからアカマツといわれます。ここ森林公園は、もともと天然のアカマツ林を主体とした豊かな自然に恵まれた場所に位置し、今もアカマツの大木が数多く見られます。アカマツは、どんなやせ地でも育ち、干ばつにも強いことから「根性の木」として評価されています。800年前の東大寺大仏殿の復興材や、昭和40年の皇居新宮殿「松の間」の内装材にも使われました。

マツ科
Pinaceae

赤松

アカマツ PINUS DENSIFLORA

樹皮は赤褐色。葉はクロマツに比べて柔らかで細く、女性的でメマツ(雌松)ともいう。やせ地でもよく育つ。

